

株式会社 /l-モニック・ドライフ..・システムズ"

2014年3月期 第2四半期決算説明会

2013年11月21日

このプレゼンテーション資料には、2013年11月21日現在の将来に関する予想が含まれております。この予想は当社経営者の判断に基づくものであり、事業環境の変動等のリスクや不確定要因を含んでおります。そのため、実際の業績は、これら見通しと大きく異なる結果となる場合があることをご了承願います。

FINE MECHANICS & TOTAL motion CONTROL



決算の概要

第2四半期累計期間 連結業績(対期初予想比)。

	期初予想 (5/14開示)			
	金 額 百分比 (%)			
売上高	10,000	100.0		
営業利益	2,040	20.4		
経常利益	2,170	21.7		
四半期純利益	1,280	12.8		

14年3月期第2四半期累計			
百分比 (%)			
100.0			
23.1			
24.6			
15.6			

_	位:日万円		
対期初予想比			
増減額 増減比 (%)			
411 4.1			
364 17.9			
387	17.8		
349	27.3		

第2四半期累計期間 連結業績(対前年同期此)。□

	13年3月期第2	2四半期累計	14年3月期第2	14年3月期第2四半期累計		対前年同期比	
	金額	百分比 (%)	金額	百分比 (%)	増減額	増減比 (%)	
売上高	9,847	100.0	10,411	100.0	564	5.7	
売上総利益	4,188	42.5	4,602	44.2	414	9.9	
営業利益	2,216	22.5	2,404	23.1	188	8.5	
経常利益	2,208	22.4	2,557	24.6	348	15.8	
四半期純利益	1,202	12.2	1,629	15.6	426	35.5	
EPS (円)	39.39		53.36		13.97	35.5	
設備投資額	393		418		25	6.4	
減価償却費	506		537		32	6.2	
研究開発費	547		595	0.1	48	8.8	

第2四半期累計期間 主要グループの業績

単位:百万円

		山次山赤	売	L 高	四半期	純利益
		出資比率	金額	増減比 (%)	金額	増減比 (%)
	(株) ハーモニック・ト [*] ライフ [*] ・ システムス [*]	_	9,089	4.7	1,379	18.7
※1 ※4	米国子会社(連結) エイチ・ディ・システムズ (ハーモニック・ト・ライブ・エルエルシー)	100% (51%)	1,616	8.2	**3 87	36.7
	(株) ハーモニック・エイテ・ィ	100%	909	4.5	27	▲28.7
%2 %4	ドイツ関連会社 ハーモニック・ト・ライフ・・アーケー	35%	3,934	25.3	714	103.8

増減比(%)は対前年同期増減率を表しております。

- ※1 平均為替レート 2012年1月~6月:1US\$ = 79.74円 2013年1月~6月:1US\$ = 95.59円
- ※2 平均為替レート 2012年1月~6月:1€ = 103.45円 2013年1月~6月:1€ = 125.50円
- ※3 米国子会社(連結)の四半期純利益は、少数株主利益控除後の数字です。
- ※4 海外子会社及び海外関連会社の決算日は12月31日です。

第2四半期累計期間 単体業績



単位:百万円

6

14年3月期第2四半期累計	対前年同期比
---------------	--------

		.	
金額	百分比 (%)	増減額	増減比 (%)
9,089	100.0	409	4.7
3,733	41.1	213	6.1
1,969	21.7	152	8.4
2,118	23.3	127	6.4
1,379	15.2	217	18.7
45.17		7.11	18.7
235		▲51	▲17.7
325		3	1.1
581		▲11	▲1.8

13年3月期第2四半期累計

百分比 (%) 額 金 8,680 100.0 3,519 40.6

営業利益

経常利益

売上高

売上総利益

四半期純利益

EPS(円)

設備投資額

減価償却費

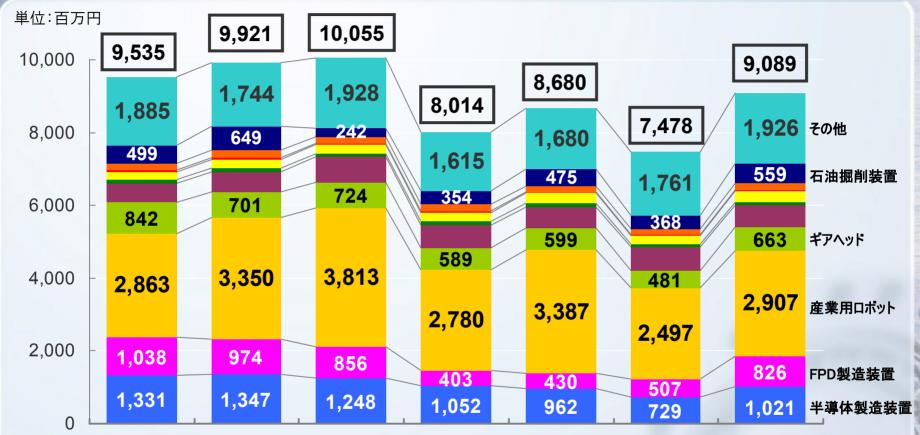
研究開発費

20.9 1,816 1,991 22.9 1,161 13.4 38.06 286 322 592

※設備投資額は、有形及び無形固定資産取得額

用途別売上高(単体)





11年3月期上期 11年3月期下期 12年3月期上期 12年3月期下期 13年3月期上期 13年3月期下期 14年3月期上期

- ■半導体製造装置
- ■金属工作機械
- ■計測試験機器
- FPD製造装置
- ■印刷紙工機械
- ■石油掘削装置
- 産業用ロボット
- _ 光学機器
- ■その他

- モータメーカ向ギアヘッド
- ■荷役運搬機械

第2四半期累計期間単体営業利益 前第2四半期累計期間比の増減要因





2013年3月期 第2四半期累計期間

2014年3月期 第2四半期累計期間

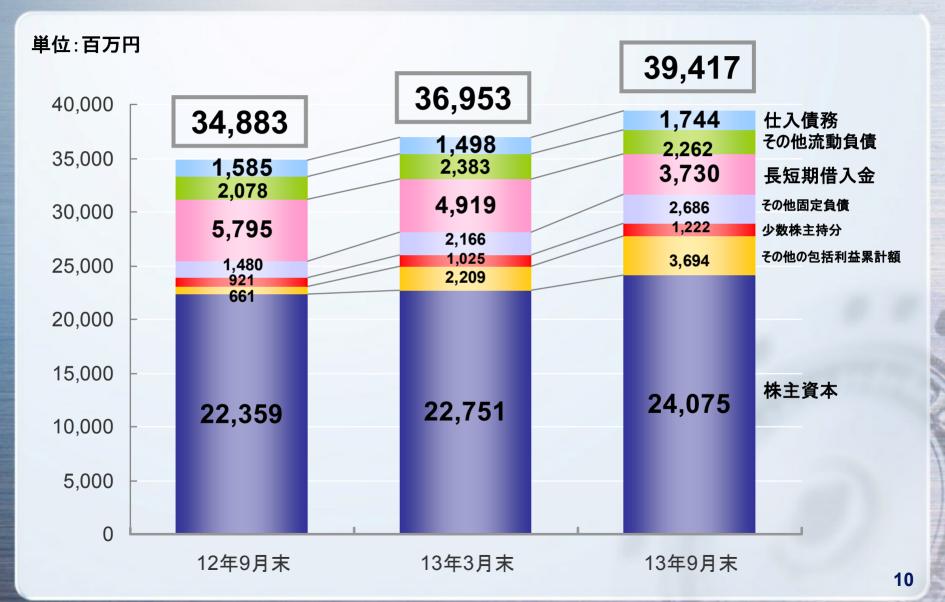
連結資産の状況





連結負債・純資産の状況





連結キャッシュ・フローの状況



単化	7:百万	一
-	_· / /	, I J

13年3月期 第2四半期累計

14年3月期 第2四半期累計

営業活動によるキャッシュ・フロー

2,493

1,544

投資活動によるキャッシュ・フロー

2,885

▲449

財務活動によるキャッシュ・フロー

▲1,224

▲1,536

換算差額

18

143

現金及び現金同等物の増(▲減)額

4,173

▲298

現金及び現金同等物の四半期末残高

8,353

9,415





通期 連結業績予想の修正



単位:百万円

【対期初予想比】

売上高

営業利益

経常利益

当期純利益

期初予想(5/14開示)				
金 額 百分比 (%)				
21,000 100.0				
4,700 22.4				
4,930	23.5			
2,900	13.8			

修正予想 (11/12開示)		
金 額 百分比 (%)		
21,400 100.0		
4,930 23.0		
5,130 24.0		
3,200	15.0	

対期初予想比		
増減額 増減比 (%)		
400	1.9	
230 4.9		
200	4.1	
300	10.3	

2014年3月期 連結業績予想



単位:百万円

対	前	期	比

14年3月	期予想	対 前	期比	
金 額	百分比 (%)	増減額	増減比 (%)	
21,400	100.0	3,269	18.0	
4,930	23.0	1,493	43.5	
5,130	24.0	1,553	43.5	
3,200	15.0	1,239	63.2	
104.81		40.59	63.2	
1,050		▲327	▲23.7	
1,130		11	1.0	
1,200		54	4.7	

13	年3	≣	期	聿	結
	— J	J	77]	ᆽ	小兒

金 額

百分比 (%)

売上高

18,130

100.0

営業利益

3,436

19.0

経常利益

3,576

19.7

当期純利益

1,960

10.8

EPS(円)

64.22

設備投資額

1,377

減価償却費

1,119

研究開発費

1,146

※設備投資額は、有形及び無形固定資産取得額

※14年3月期予想の前提為替レート: 1US\$ = ¥97.00 1€ = ¥130.00

2014年3月期 主要グループ会社の業績予想

単位:百万円

		出資比率	売 上 高		当期純利益	
		山貝儿华	金額	增減比 (%)	金額	増減比 (%)
	(株) ハーモニック・ト・ライフ・・ システムス・	_	18,800	16.3	2,820	48.9
※1 ※4	米国子会社(連結) エイチ・ディ・システムズ (ハーモニック・ト・ライブ・エルエルシー)	100% (51%)	3,200	15.6	**3 130	20.4
	(株) ハーモニック・エイテ・ィ	100%	1,850	7.1	60	46.0
※2 ※4	ドイツ関連会社ハーモニック・ト・ライフ・・アーケー	35%	8,000	26.0	1,050	11.1

増減比(%)は対前年同期増減率を表しております。

- ※1 平均為替レート 2012年1月~12月(前期):1US\$ =79.82円 2013年1月~12月(今期)予想:1US\$ = 97.00円
- ※2 平均為替レート 2012年1月~12月(前期):1€ =102.63円 2013年1月~12月(今期)予想:1€ = 130.00円
- ※3 米国子会社(連結)の当期純利益は、少数株主利益控除後の数字です。
- ※4 海外子会社及び海外関連会社の決算日は12月31日です。

2014年3月期 単体業績予想



単位	: 百	万	圧
T (11/2)	• 🗀	/5	ſ.

2 (%)

	単位・日カ1			
14年3月期予想		期比		
百分比 (%)	増減額	増減比 (%		
100.0	2,640	16.3		
22.3	1,244	42.1		
23.3	1,206	38.0		
15.0	925	48.9		
	30.33	48.9		
	▲ 183	▲22.8		
	19	2.7		
	50	4.4		
	百分比 (%) 100.0 22.3 23.3	百分比 (%) 100.0 2,640 22.3 1,244 23.3 1,206 15.0 925 30.33 ▲183 19		

13年3月期実績

額 金

百分比 (%)

売上高

16,159 100.0

営業利益

2,955 18.3

経常利益

3,173 19.6

当期純利益

1,894

11.7

EPS(円)

62.04

設備投資額

803

減価償却費

711

研究開発費

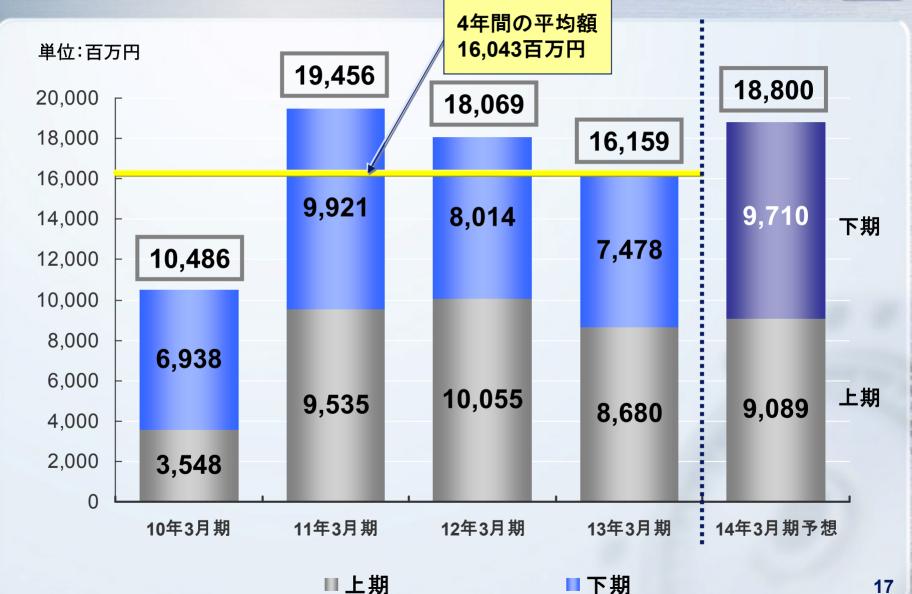
1,129

※設備投資額は、有形及び無形固定資産取得額

※14年3月期予想の前提為替レート: 1US\$ = ¥97.00 1€ = ¥130.00

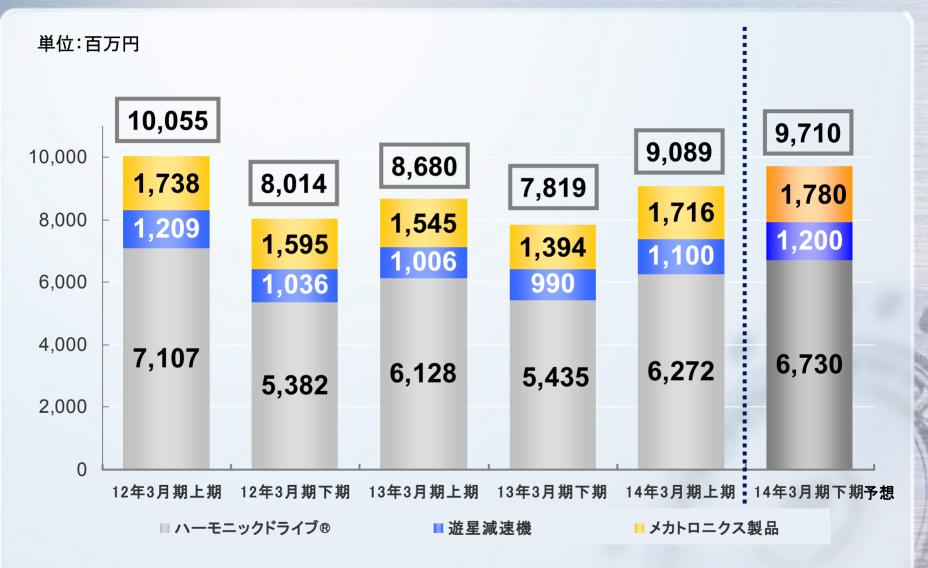
売上高の推移(単体)





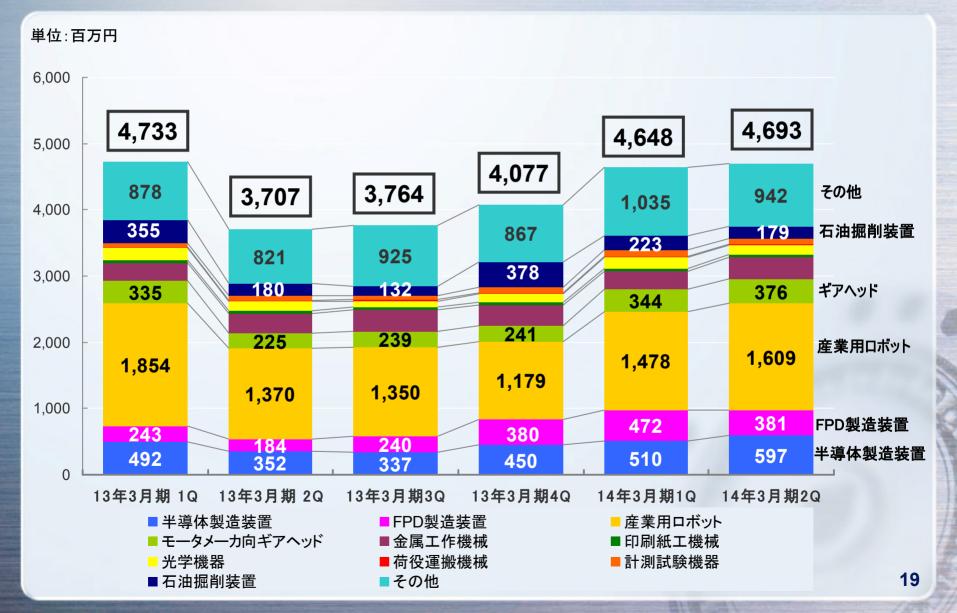
製品群別売上高(単体)



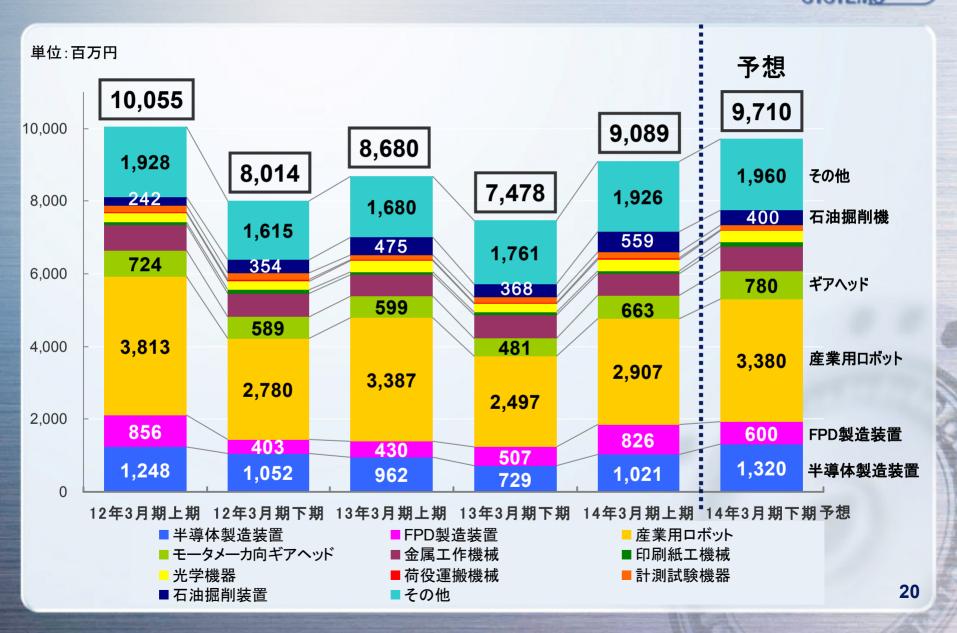


用途別受注高(単体)【四半期】



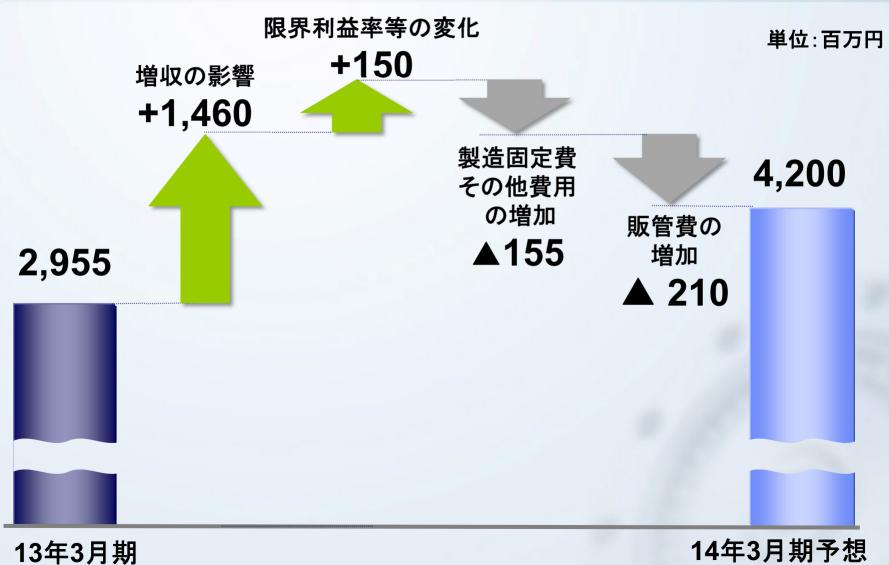


用途別売上高(単体)【下期予想の前提】。



2014年3月期予想 単体営業利益 前期比增減要因





14年3月期予想

営業利益の推移(単体)









主要用途の動向



用途

業界の動き

技術動向

半導体 製造装置

- ・デバイスメーカーの寡占化
- ・製造装置メーカーの再編

- •微細化
- •フラッシュメモリの3D化
- ・ウェハーの大型化

産業用ロボット

- ・新興国でのロボット需要拡大
- ・中国でのロボット生産拡大
- ・人と協働するロボットに対する期待
- ・食品・医薬用途への期待
- ・自ら考え、変化する状況に対応で きるロボットの開発進展

- ・小型ロボット市場拡大
- ·多軸化、双腕化
- •高速化、高精度化
- ・パラレルリンクロボット
- ・センサー技術の進歩
- ・ハンド技術の進歩

モーションコントロールに対するニーズの多様化と拡大

コア技術と製品バリエーションの強化





より大きな力を

より小さな重量で



より精度良く

より小さな容積で

【お客様の使い勝手向上】

周辺部品開発

すりあわせ技術







軸ごとに異なるニーズに対応できる製品バリエーション

軽量

高応答

中空形状

低振動

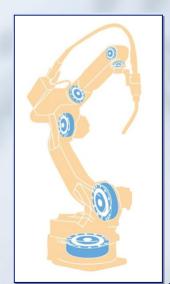
位置決め精度

偏平形状

高容量軸受

低騷音

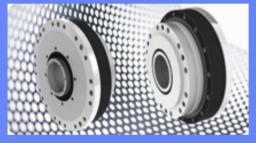
高速



新製品の投入による市場深耕「ハーモニックドライブ®」

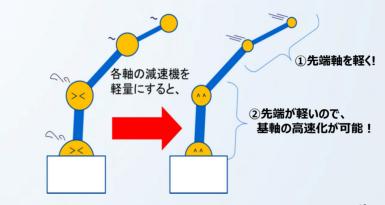


ハーモニックドライブ® 軽量ユニットタイプを市場投入





1.ロボットの高速化に貢献



- 2.ロボットの可搬重量引上げに貢献
- 3.ロボットの軽量化による設置・移設負担の軽減に貢献
- ・新開発垂直ロボットへの採用(小型・高速ニーズに合致)
- ・大型ロボットの手首軸への採用(可搬重量向上ニーズに合致)

新製品の投入による市場深耕「メカトロニクス製品」



メカトロニクス製品

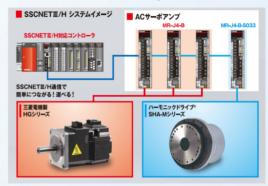
- サーボモーターメーカーとの コラボレーション
- ACサーボアクチュエーターの型番追加、オプション拡充





他社制御システムとの連携

三菱電機 SSCNETⅢ/H通信でつながる



三菱電機 ACサーボアンプで当社アクチュエーターを駆動することが可能。



三菱電機の制御システムで構築された装置に当社メカトロニクス 製品が採用

遊星減速機の製品ラインアップ強化



精度

ロボット・半導体 製造装置

高精度 位置決



Harmonic Drive[®]

加工装置など

ある程度の、位置決め



AccuDrive

新製品

韓国(アジア) 市場向け HPNシリーズ 高性能、静音 短納期、低価格 現行主力製品 HPGシリーズ 高精度、 ローバックラッシュ 高出力製品 HPGPシリーズ 高トルク、高精度、 ローバックラッシュ

新製品

パワー重視

一般產業機械

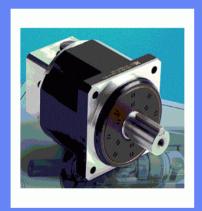


価格

新製品の投入による市場深耕「精密遊星減速機」

精密遊星減速機

アジア市場向け精密遊星減速機の市場投入



1.韓国子会社での生産開始

三益ADM株式会社(韓国)



日本から生産技術を移転し、当期から 生産開始

2.韓国・中国市場の拡販体制整備

- ・代理店網の拡充
- ・商品ラインアップの拡充

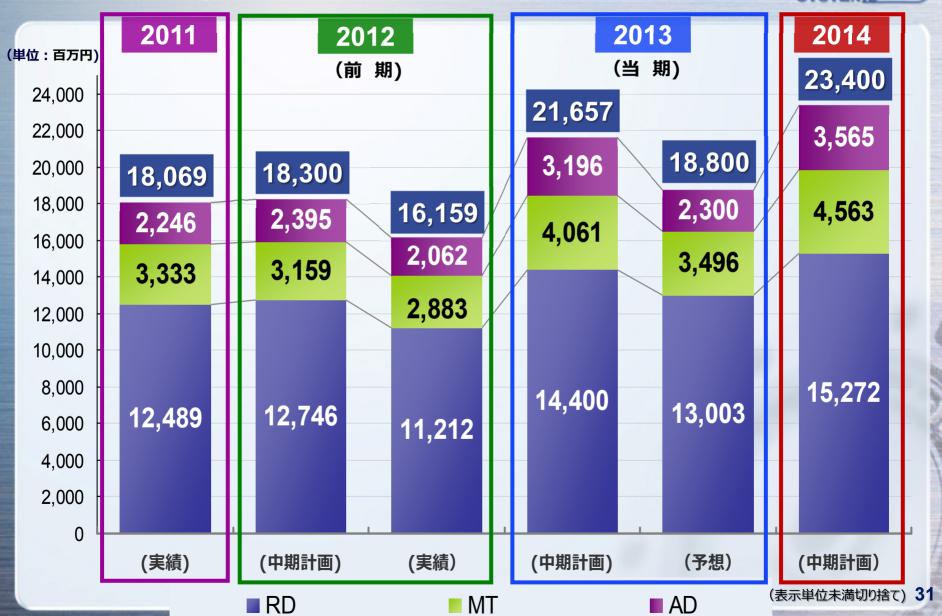
韓国パートナーと新たな市場開拓・生産体制の確立を推進中



基本的な考え方と方向性

中期経営計画の進捗状況





中期経営計画の基本的な考え方



中期的な成長の鍵

- 1. 品質と安全を最優先した経営
- 2. コア技術の強化
- 3. 製品バリエーションの拡充
- 4. アジア地域への拡販強化

計画策定当初の基本的な考え方は不変

トータル・モーション・コントロール



事業領域

精密制御分野における 「トータル・モーション・コントロール」という価値の提供

